



新古今

睢陽曲 後後郡國志 國注地 道記曰 梁孝王 築城十二
里 小鼓 鳴以 百梓 下而 和之 稱睢 揚曲



服部文庫
イ 17
2137
18

117
2558



117 特
2137
18

事新上

まき川心けすめ

梅政ちぬち月



みかやいしらすてはや乃ありしし小まらふまは

なるめりめい

ちよてか

りゆいしらすてはや乃ありしし小まらふまは

かよめい

山ものまらふまは

ま内卿

かきりけりまらふまは

入るまらふまは

りあしりまらふまは

まらふまは

いてはまらふまは

117 2558

あきしんらう

凡そこの書り方一つをみればたゞのしきたりなるなり
時々あるありぬしをさうして仲交山ありて川たまたしく
陽川流す所なるなる残のまかれば後結る 権中御玉信
まある神と下と之とくしる神のまかればまかきゆらまのなりゆき
山をさる人

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみ

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

あまのつらみればあまのつらみ 神のまかればまかきゆらまのなりゆき
こら 陽川流す所なるなる残のまかれば後結る

とよはちやよしあしいむかひのともりのくむけしのもいさう

友京書

くろねるをならり新波のりいのともまこゆるま

西村法師

うのぼしうほのみきときまらうのほけ川のうのま

源平

梅こそあふふをいさつるもと花といさすああといさ

いさす人

りゆめいさすむちうああせしすいさすいさすああ

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

惟明親王

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさすいさすいさすいさすいさすいさすいさすいさす

いさす人

いさす人

揚政ちぬりあるる事かま

定年運使所

いましめたのむのねとうちりいぬあちり月夜あけのけ
形でれ補まかりはるる事としてり
まことあまにあらるつるてあまをけりるるけちあめ
あいまり

ありらるるしちあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

つらるるあめあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

あつるあめりあめりたねあてくありあめりあたまの
揚政ちぬり

この御

二千二百七十八の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御

一、此の御 一、此の御 一、此の御





以下全て
白紙

